令和５年度さいたま市立与野南中学校　学校だより
みなみかぜ

南風

臨時号
令和６年３月１５日発行
http://yonominami-j.saitama-city.ed.jp

＜学校教育目標＞ 進んで学ぶ生徒　心豊かな生徒　心身共に健康な生徒

これからの世の中を乗り切っていくために ～ 「式辞」から

校長　吉原誠士

「世の中は、随分速く変ってゆく。私がこの世に生れてきてからの六十数年の間にも、何度も大きな変化があった。しかも、変化のテンポは、あとほど速くなっている。この調子でゆくと、これから先、どう変ってゆくのか、空恐しいくらいである。」（中略）「予想外の変化がしばしば起る。」（中略）「私たちは一体、どう考えたらよいのか。」　これは日本で最初にノーベル賞を受賞した湯川秀樹博士による文章です。その当時から５０年を経た現在の社会でも、少子高齢化、グローバル化や技術革新等による生活や雇用環境の急速な変化、環境破壊や自然災害など問題が山積しています。生成ＡＩは自ら思考し始めているまで言われ、避けては通れない難題です。私たちは一体、どう考えたらいいでしょうか。

私は次のように考えています。ＡＩは「人間の脳」の思考により生まれました。そう考えると、思考を伴う活動をＡＩに任せきってはいけないことが察せられます。怖いのはＡＩをコントロールしたり、新たな機械を生み出したりできる人間（脳）がいなくなることです。私たちが大切にしなければならないのはよい脳を作ることなのです。学校や家庭で「学ぶ」という行為を続けるのは脳を鍛えるためです。敢えて「学ぶ」と表現しているのは「習う」は「学ぶ」の一部だからで、「学ぶ」には「自ら」を付け加えるのが通例です。与野南中学校では「学び」を深めるための具体的な活動がありました。これらの「学び」は今後の進学先や社会人になってからも活かし続けることによって脳を鍛えることが可能です。

時代を乗り切る脳を作るにはいろいろな方法があるでしょう。私は次の３点について述べました。

① 自分の考えを持ち（思考し）、対話や会話を多く持つ（たくさん話をする）こと

② 直接体験する（本物にふれる等、五感を働かせる）機会を増やすこと

③ 知識や思考、体験から得たイメージ等を脳内でつなぎ合わせる作業（書く）を重視すること

この内、①と②についてはこれまでもお話をしてきました。③は知識の保持を確実なものにしたりそれらを次の思考に活用できるようにしたりするプロセスのことです。これには手を動かすことが一番だということが、本校での取り組みでもはっきりしてきました。例えば「要約をまとめる」「レポートを書きまくる」「手作業で作図して問題を解く」等は多くの人に有効です。ヒトという生物の進化は、二足歩行により手が空き、手を使ううちに大脳が大きくなり、脳の発達を繰り返しながら今に至ったという説を思えば当然のこととも言えます。

最初に挙げた湯川秀樹先生の文章の結びは、「今後は、もっと深刻な問題が、いろいろと出てくるであろう。今のところは、それらの多くは、少数の人たちの取越し苦労に過ぎないと思われやすいのである。しかし、あまりにも変化の速い、混迷の時代に生きる私たちは、その時々の多数意見を鵜呑みにするのではなく、未来に対する真剣な憂慮に根ざす少数者の意見にも、耳を傾けることを怠ってはならないであろう。」とあります。この結びを聞いて、みなさんはどのような考えを持ちますか。